

きらり おばま 人



田村の里ファーム

左から大江さん、西本さん、東さん

中名田地区で進む農地の耕作放棄。このような状況の中、地域の農業を守りたいと、西本清司さん（和多田・54歳）、東清俊さん（下田・51歳）、大江進さん（和多田・51歳）の三人は、勤めのかたわら地域農業保存会「田村の里ファーム」を立ち上げました。「この地域では、きれいな水、寒暖差ある地の利を生かした稲作でおいしい米ができるんですよ。でも、周りに耕作放棄地が増えれば、動物や虫の住みかになって稲作どころではありません。何とか歯止めをかけた、同じ考

生まれ育った地域を守っていきたい

えを持つ有志三人でこの会を立ち上げました」と代表の西本さんは話します。三人は、耕作放棄地を草刈りや請負耕作するなどして管理をする一方、地元生産者の協力で、中名田地区で収穫した米を「田村米」として販売し、生産者に還元しているそうです。「放棄地を管理していくことはすごく大変です。でも最近、「田村米はおいしい」とよく耳にするようになりました。地元での消費も増え、地産地消も進んでいます。生産者にとってうれしいことで、何より農業にやりがいが出てくるんですよ。今後は中名田地区全体で放棄地対策に取り組んでいきたいですね」と話す東さん。「この活動で、地域の人、特に若い人が少しでも農業に関心を持つきっかけになればうれしいですね。農業の担い手が増え、耕作放棄地が減ることを願います」と話す大江さん。「生まれ育った愛着あるこの中名田を、安心して暮らせる地域として子や孫の代まで残すことがわたしたちの使命だと思っています。先祖から受け継いだこの土地をいつまでも守っていきたいですね」と郷土愛あふれる三人は口をそろえて話します。

●あなたの周りの「きらり輝いている人」「生き生きしている人（グループも歓迎）」を紹介してください。情報課 広報・広聴グループ ☎53・1111 内線373

「地産地消をすすめる店」を認定

■問い合わせ 食のまちづくり課 ☎内線375

市では、若狭地域で生産される農林水産物やその加工品を積極的に取り扱う市内の飲食店、食品店を「地産地消をすすめる店」として認定しています。今年下記の下記の五店を認定し、十月九日(土)のOBAMA食のまつりで認定証と認定看板を交付しました。

- 【認定店】
- いけす割烹雅（小浜香取）
- グルメスポット
- 炉端KAPPA（小浜酒井）
- マーストアーおばま ショッピングセンター店
- マーストアー西津店（雲浜一丁目）
- マーストアー東小浜店（遠敷五丁目）



OBAMA 食のまつりでの認定証交付式

- 【主な認定基準】
- 食品衛生法など、関係法令を遵守している店
- 若狭産品を主に活用した料理をメニューの一部に取り入れている店、または若狭産の食品売り場を設置している店
- 取り扱う若狭産品を、今後増やしていくこととする店

※今回の認定で「地産地消をすすめる店」は四十七店になりました

俳句

小浜市俳句作家協会

- 一本の芒が供華の墓一基 山王前一丁目 船上 照江
- 朝時雨雀の宿る深庇 山手二丁目 井上ひさの
- 重ね着しサマーセーターぬぎ忘れ 水取四丁目 岡 志ほり

山柳

川柳かもめ教室

- 復員の兄の乾パンかじった日 千種二丁目 新田千代子
- 転勤の息子は鴨の親になり 雲浜二丁目 宮脇 和子
- 催促の電話がかかる誕生日 雲浜二丁目 的場美夜子

短歌

音無川短歌会

- 「今行く」と電話のありて待ちをれば 友は初ものの松茸持ちくる 池田 山本 保子
- 観月の大覚寺池に屋形船 竹竿さばく水音ゆたり 池田 青木 哲子
- 吾亦紅山の大気を運びきて 想ひ巡らす二十歳の秋 竜前 辻 彌生

広告

広告

広告

広告

広告

広告